

ライフリー いきいき通信

CONTENTS.....

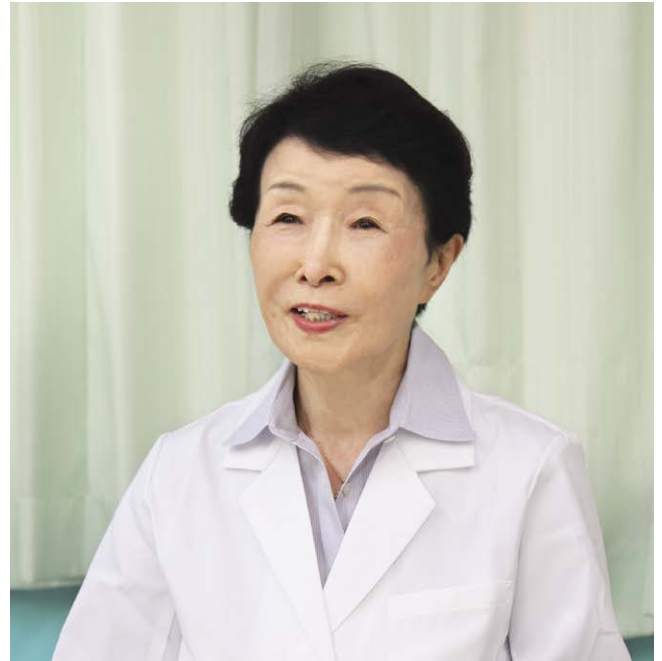
- カバー・トピック 超高齢社会における人と動物の共生
 病院・施設訪問 社会福祉法人協和会 特別養護老人ホーム きく
 社会福祉法人信愛報恩会 信愛病院

Interview

動物との温かなふれあいは 高齢者の笑顔と意欲を 引き出します

赤坂動物病院 総院長 しば ない ひろ こ 柴内裕子先生

1959年、日本大学農獣医学部を卒業後、1963年に赤坂動物病院を開業。1986年に日本動物病院協会（現・公益社団法人日本動物病院協会）の第4代会長として、人と動物のふれあい活動（CAPP）をスタートさせる。現在、同協会相談役。2007年、IAHAI（人と動物の関係に関する国際組織）特別賞受賞。著者『これからの犬の育て方しつけ方』（講談社）、『都会で犬や猫と暮らす』『子どもの共感力を育む』（ともに共著・岩波ブックレット）など多数。



安らぎをもたらす“伴侶動物”としての存在

犬や猫がいると、思わずなでてあげたくなることってありますよね。そんな思いが湧いてくるのには理由があります。犬や猫は太古の昔から人間の生活に溶け込み、ともに暮らし、心を通わせてきた一番身近な生き物です。そうした記憶が人類のDNAに深く刻まれているから、そばにいと笑顔になって声をかけたくなる。抱っこすればお世話もしたくなる。犬や猫は人間にとって“伴侶動物”なのです。こうした人と動物の深い関わりに着目して、私たち日本動物病院協会（JAHA）では1986年以来、人と動物のふれあい活動（コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム＝CAPP）を続け、多くの方の笑顔を取り戻し、身体機能の維持や向上を実現してきました。

発語を促し、自立や行動意欲を引き出す名手たち

CAPP活動では、動物たちと獣医師、ボランティアが、ともに介護施設や病院を訪問します。昔は、犬や猫が畑や街角、庭などいたるところにいましたから、ご高齢の方はとくに懐かしく思われ、喜ばれるようです。動物とふれあうことで、子供時代の思い出や家族で動物を飼った記憶がよみがえり、自然と発語や笑顔が増えます。手足が不自由だった方がワンちゃんをなでたい一心で自ら手を動かし、やがてご自分でスプーンをもてるまでになったこともあります。

また、介助なしに立ち上がれなかった方が動物に会うためにご自分の力で立ち上がった光景も目の当たりにしました。動物とふれあうことで、人の脳内では前頭葉への血流が増し、生理機能を高めて心を安定させる“オキシトシン”という幸せホルモンが分泌されるとの研究報告もあります。皆さんの変化を目にするたびに私たち自身も驚き、動物たちは「発語を促し、自立や行動意欲を引き出す名手」であると実感してきました。

人と動物が良きパートナーになれる共生社会を

介護施設や病院への訪問は、じつは動物たちも心待ちにしているのです。私たちが準備を始めると、自らキャリーに入って待っていたり、リードをくわえて駆け回ったりと大はしゃぎ。皆さんに褒められて、なでてもらえることが動物たちに大きな喜びと達成感をもたらします。活動に参加する動物は健康状態や性格、しつけなど厳しい条件をクリアしていますが、何より大切な条件は「人間が大好き」であること。この活動を通じて、人も動物もますますハッピーになれる好循環の輪が生まれています。動物は、高齢者の行動意欲や元気を引き出し、これからの超高齢社会で、とても大きな役割を果たしてくれる存在です。人と動物が良きパートナーとして助け合い、お互いのQOLを高めていけるように、これからも、高齢者医療、介護に関わる皆さんと協力して、そうした温かな社会をつくっていきたくと考えています。

動物たちが活躍する 2つの施設を訪ねました!

動物たちの元気にふれて和気あいあい。
笑顔と会話が弾み、施設全体が活性化



社会福祉法人協和会 特別養護老人ホーム **きく**
(東京都江戸川区)



動物たちの楽しいショーに
利用者様の目も釘付け!

デイサービスとショートステイ施設が併設され、地域の高齢者の憩いの場ともなっている特別養護老人ホーム「きく」。季節行事、お楽しみ会など数多くのイベントの中で、特に人気が高いのが動物とのふれあい活動の時間です。JAHAの獣医師とボランティアが連れてくる犬や猫たちが輪くぐりや行進などのショーを披露。その愛らしい姿に大きな拍手が起こります。さらにふわふわな毛をなでたり、抱っこしたりとふれあいを楽しみ、利用者様とスタッフが一緒になって笑いと歓声が絶えない時間を過ごします。



皆さんの目が輝く! 動物たちは元気をくれる“万能薬”です

動物たちとふれあった利用者様の目の輝きや笑顔を初めて見たときの感動は今でも忘れられません。動物の“人を元気にさせるパワー”は素晴らしく、利用者様の柔らかな表情や声の張り、手を伸ばして動物にふれようとする姿勢など、もたらされた変化にとっても驚きました。何よりうれしかったのは、本活動をきっかけにご自身の体験や思いを語られて、その方の人生ストーリーを知ることができたこと。昔を回想されたり、発語が増えることで、コミュニケーションが深まり、スタッフもより心の通ったケアができるようになりました。動物好きの方には「ワンちゃんがいるから会いに行ったら?」とお声がけすることも。するとベッドから自分で起き上がって駆けつけてくださる。動物たちは、利用者様の心と体を元気づける最高の“万能薬”です。



西田憲司 事務長

表情が豊かになって、共通の会話が増えました!

「ふだんは無口な方の発語がぐんと増えます。認知症の方は発語や口の運動を促すのが難しいこともあるのですが、自然に言葉が出てきて口腔機能への刺激にも。動物たちが来る日は施設全体がいきいきと活気づきますね」
(高橋さん)

「表情が豊かになり、笑顔や優しいお顔が見られるのがうれしいですね。ご自身の飼っていたペットや子供の頃の思い出がよみがえってきて、私たちに話してくださる方も多く、利用者様同士やスタッフとの共通の会話も増えています」
(西口さん)

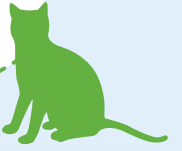


介護福祉士
西口 舞さん



介護福祉士
高橋 貴宏さん

動物たちとのふれあいは、高齢者の皆さまに
どのような変化をもたらしているのでしょうか？
実際に動物介在活動、介在療法に取り組みられている
2つの施設を訪ね、お話を伺いました。



心身に好影響をもたらす 動物介在療法を導入し、楽しく続けられる リハビリを実現

社会福祉法人信愛報恩会 **信愛病院**
(東京都清瀬市)



高齢者医療の充実に力を入れる信愛病院は、1997年に日本で初めてアニマルセラピーを高齢者のリハビリテーションに導入した病院です。2000年からは動物介在療法をリハビリの補助療法として月3回実施。JAHAメンバーのサポートのもと、作業療法士がプログラムを行っています。動物との遊びやお世話などの活動を取り入れたリハビリプログラムは、楽しく取り組むことができ患者さんにも好評です。



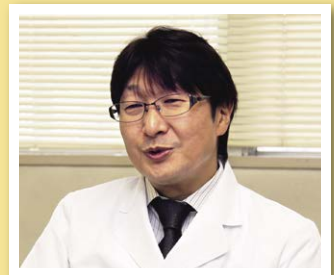
「取っておいで！」
ボールを投げて運動機能の
向上を図ります



ブラッシングで
細かな手の動きを促します。
「私も成年なのよ」と話しかけながら
笑顔がこぼれます

動物がそばにいる日常に近い環境が心身を活性化します。

当院では、待合室や作業療法室、入院病棟など施設内に人に連れられた動物たちが行き来するのが日常の光景となっています。犬をはじめとする動物たちは、人間の良きパートナー。動物がいることで患者さんに与える精神面での安らぎや喜び、リラックス効果はとても大きいと感じています。介護や療養が必要な患者さん、またリハビリテーションが必要な患者さんにとっては、**動物との交流で脳が刺激され、神経系が活性化**する効果も期待できます。医療スタッフからは、動物介在療法で患者さんの心身面の改善が見られたとのうれしい報告もたびたび受けています。患者さん一人ひとりに合った温かい医療を提供していく上で、動物介在療法は私たちの欠かせない活動の一つです。



越永守道 院長

離床を促し、意欲を高める理想的なリハビリです。

「1日をベッドで過ごされることが多い患者さんに離床を促す良いきっかけになると感じています。いつもは長時間座れない方でも、動物介在療法の時間はしっかり座っておられることも。発語や表情の変化も増すと感じています」
(幸村さん)

「病気の影響で精神的に不安定になる患者さんも少なくないのですが、ふだんは見られない素敵な笑顔がこぼれて、意欲の高まりも感じられます。楽しみながら続けられるリハビリのひとつだと思います」
(大内さん)



作業療法士
大内聡子さん

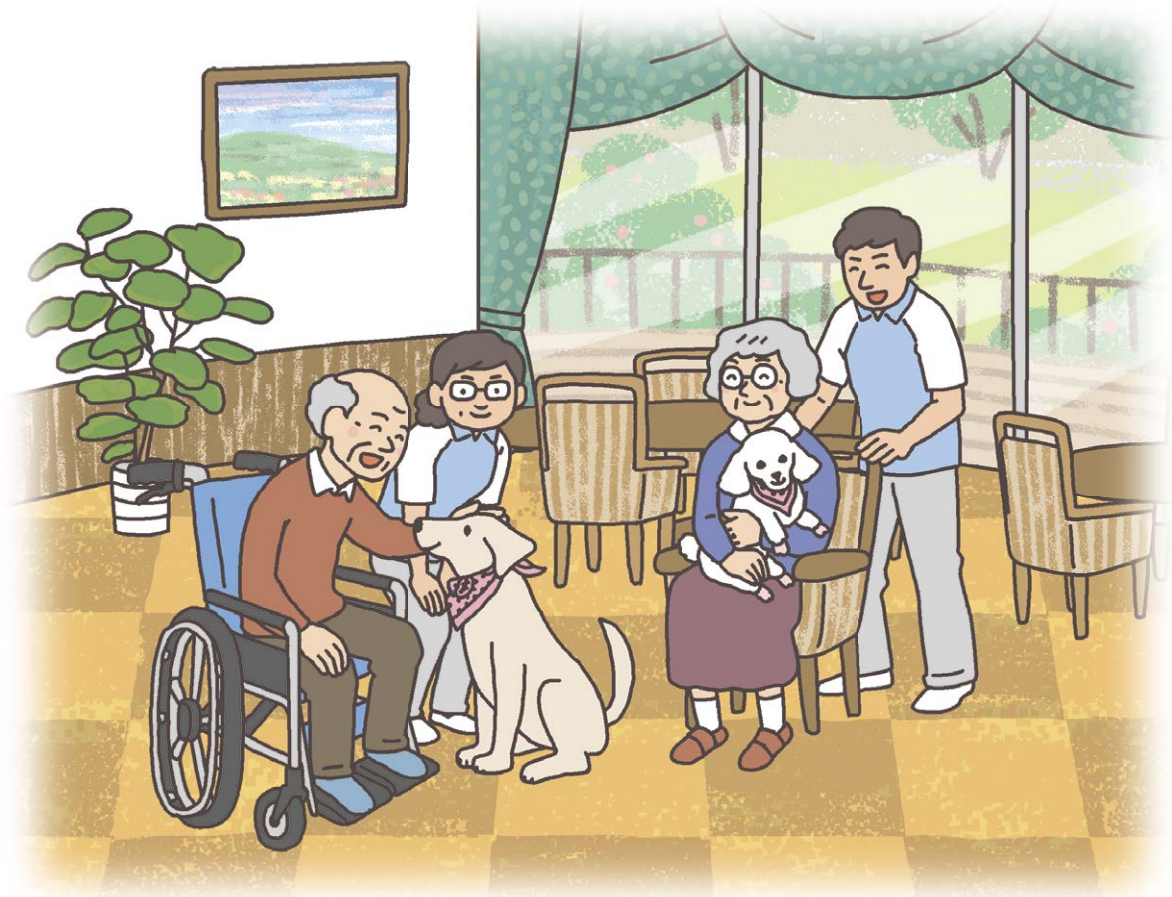


作業療法士
幸村優美さん

～共生社会の
実現を目指して～

ユニ・チャームは、 人とペットの笑顔あふれる 健康的な毎日を応援しています。

ユニ・チャームが目指す「共生社会」とは、あらゆる世代の人々がお互いに負担を感じることなく、“その人らしさ”を尊重し合いながら、自然に支え合って暮らせる社会です。
人とペットが共に、喜びに満ちた健康的な生活を送れる「共生社会」の実現のため、事業活動を通じて、これからもサポートしていきます。



高齢者を寝たきりにさせず、大人用おむつで「リハビリ」をするという、新しい介護習慣をご提案しています。それによって、高齢者の尊厳を守り、自立を促進するとともに、介護する側の負担も軽減します。



ユニ・チャーム ペット

一緒に暮らし、一緒にお出かけできる。そんな家族の一員ともいえるペットの健康や衛生面を支えるペットフード、ペット用排泄シートなどのラインナップを充実させています。



〒108-8575
東京都港区三田3-5-27
住友不動産三田ツインビル西館
ユニ・チャーム株式会社
TEL. 03-6722-1015
FAX. 03-6722-1042

ライフフリーサイト
[http://www.unicharm.co.jp/
healthcare/](http://www.unicharm.co.jp/healthcare/)



排泄ケアナビ
<http://www.carenavi.jp/>



2017年7月発行